

令和7年度 第1回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 令和8年1月14日（水）14時00分～15時00分

開催場所 彦根勤労福祉会館 4階 大ホール

出席者 別紙参照

1 開 会

2 議 事

（1）「第1号議案 令和7年度補正予算（案）」について（資料1）

- ・ 第1号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

（2）「第2号議案 地域公共交通確保維持改善事業に係わる自己評価」について（資料2）

- ・ 第2号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、異議無く承認された。

● 若林委員（旧多賀町公共交通会議委員 副会長）

- ・ 宮田線の利用者数が約4割減少しているが、その原因が分かれば教えて欲しい。

● 事務局

- ・ 現時点で原因は把握できていないため、今後分析していきたい。
- ・ もともと宮田線の利用は少ないため、特定の1人が利用をやめると今回のように減少する原因にもなり得る。

（3）「第3号議案 愛のりタクシー停留所の新設・移設等」について（資料3、資料3（追加資料））

- ・ 第3号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、異議無く承認された。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 資料3の4ページに「グリーンハイツ西」停留所の位置が示されており、建物等がない道路上に設置されるみたいであるが、安全性等大丈夫なのか。

● 事務局

- ・ 愛のりタクシーの停留所の設置は協議会として内規を設けており、これに遵守して設置している。今回も例外ではない。
- ・ また、「グリーンハイツ西」は地元要望により新設することになったが、自治会や運行会社の立会いのもと、現在の場所に決定されたため、問題はないと思っている。

(4) 「第4号議案 愛のりタクシー停留所の新設・移設等」について（資料4）

- ・ 第4号議案について、路線バスの運行会社（湖国バス株式会社）より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。その後、異議無く承認された。

● 若林委員（旧多賀町公共交通会議委員 副会長）

- ・ 多賀線について、休日のスクリーン経由の廃止は承知した。
- ・ 2年ぐらい前に路線バスの再編があったものの、途中に「多賀尼子」停留所があり、時刻表に「多賀尼子」の記載はないが現在も止まるのか。

● 事務局

- ・ 路線バス総合時刻表にも「多賀尼子」停留所は記載されており、今回のスクリーン経由の系統では停車しないが、別の系統では現在も停車する。

● 北村委員（湖国バス株式会社 取締役業務部長）

- ・ 資料4では今回変更を行う休日のダイヤのみを記載していたため、別系統で止まる「多賀尼子」（※平日のみ停車）の記載が抜けていることに留意していただきたい。

(5) 「報告事項 自動運転チャレンジ事業」について（チラシ）

- ・ 報告事項について、滋賀県より説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 先日、名古屋でもレベル2の自動運転が中止となり、過去に大津市でも同様にレベル2の自動運転で中止があったと記憶している。
- ・ それぞれで目的があったと思っているが、今回の滋賀県の取り組みについて、ターゲットや位置付けを補足説明して欲しい。

● 福島委員（滋賀県土木交通部 交通戦略課 参事）の代理

- ・ 自動運転は将来的な地域交通として住民の足を確保していくことが最終的な目的である。現在は技術レベルが追いついていないが、技術レベルは日進月歩であり、実証運行を通じて課題の抽出や今後の対応等の知見を得る、情報を得ることが重要であることから今回の実証運行を計画した。
- ・ 特に、今回の実証運行では自動運転車両の新しさが、まちづくりとの連携も見据えている。

● 事務局

- ・ 彦根市においては過去からP&R（パークアンドライド）、GSM（グリーンスローモビリティ）の実証実験を行っており、現在も机上ながら導入可能性等の検討を続けている。
- ・ 各種実証実験は観光交通に対する対策や渋滞の解消を目的として行われており、現在は財政的に厳しいため、導入には至っていないが、今回得られる知見は今後の参考となり得る。
- ・ 今回の実証運行はJR駅と観光地を結ぶルートなのでターゲットは観光客となるが、導入を想定した場合の運行経路は様々な観点から検討したい。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 今回は自動運転の普及や啓発ではないことは理解したが、実証運行するには検証が必要だと思うが、検証はどうするのか。検証すること自体が難しいため、課題や対策等の知見の蓄積が目的で良いか。自動運転は費用対効果効果が低いという認識である。

● 野本委員（聖泉大学名誉教授）

- ・ 自動運転は費用がかかる。一方で乗務員の人手不足は深刻な問題であり、この人手不足の解消に期待している。
- ・ 公共交通のサービス面でも現状維持を行うために、データを蓄積していただきたい。

（６） その他：今後のスケジュールについて

● 事務局

- ・ 令和６年度第３回総会で今年の事業計画の中に、愛のりタクシーの運行システムの検討が入っているが、次回の総会にて現状を報告させていただく予定である。

３ 閉 会

以上